〔写真は山田町織笠小学校の教室で不自由な生活を続ける被災者たち〕

津波
被災者は訴えている

チリ沖地震津波災害復旧のため、県は三十日臨時県議会を招集し、災害救助法発動の追加更正予算と公共事業の応急対策を決める。二十六日夜小川副知事らが中央に陳情のため上京した。死者行くえ不明六十二人、被災世帯約七千、総被害百億円を越す昭和八年の三陸津波に次ぐ大災害だ。被災者や被災地で復旧指導している町村関係者は、国や県になにを訴え、どんな対策を望んでいるだろうか。現地のナマの声を録音した。

"緊急"のサイレンを
きれいな水で顔を洗いたい

大船渡市

死者四十五人を出した大船渡町の中心街は全滅の被害を受けたが、体ひとつで放り出された被災者の一ばん欲しいもの、すぐやってもらいたいことは—。対策本部長の鈴木市長は「二十六日から現地で被災者の懇談会を開き、それを吸い上げて対策を講ずるが、とりあえず十七平方㍍（五坪）程度のバラック百戸を建てて被災者に与えたい」といっているが、被災者一人一人は—

衣料と復興資金の貸し出し

大船渡町須崎日用品店崎山ユキさん（四七）　食糧は親類がありなんとか食いつなぐことができるから、まず衣類です。家族全部体ひとつで逃げ出したため着がえがありません。あすからでも店を開きたいのですが商品がみんな流されてなにも残っていません。復興資金を貸してほしい。

手ぬぐいでもハンカチでも

大船渡町野々田料亭富谷太一さん（四七）　無一物になり布切れ一片ない。手ぬぐいとハンカチをいただいて、きれいな水でまず顔を洗いたい。あとは商売用包丁一丁ほしいと思います。水害のあともっとも恐ろしいのは衛生問題だ。この点は十分気をつけてもらいたい。また、あっという間のできごとで金を持ち出すひまもなかったので、なんとか金融の道を講じてほしい。

家屋の修理材料などほしい

大船渡町野々田冷蔵庫経営者佐藤秀司さん（四〇）　四割程度の半壊だがさし当たって修理用の材料がほしい。電話を一日も早く復旧してもらいたい。こんどの津波で感じたのは、緊急を告げる特殊な鳴りものを設けてほしいことだ。日に何回も鳴るサイレンではまぎらわしい。

暖かいフトンで寝たいが……

赤崎町生形漁業金野利右衛門さん（五〇）　まず衣類です。着のみ着のまま放り出され、暖かいふとんにくるまって寝たい気持ちでいっぱいです。またカキイカダ十台が流されました。生計のほとんどをカキとノリに頼っていましたが、親カキを垂下したあとだけに手がつけられません

一日も早く住む家を……

大船渡町赤崎魚市場職員吉田桃太さん（四七）＝人の家にお世話になっていますが、フトンがなく困っています。命が助かったのがもうけもので、余り欲深なことは申しません。縁故があればそれほど困りませんが、なんとか一日も早く住む家を建ててもらいたい。

生業資金を早く
原形復旧でなく"改良"を

宮古市

対策本部長菊池長三市長は「宮古市の被害は明治二十九年を上まわり、そのうえノリ、カキがここ数年は不作だったので、生業と生活資金のほか、住宅対策にも積極的な応援がほしい。道路の復旧は二級国道のほか宮古—釜石間に産業道路をつくり、産業振興と災害時の輸送確保に役立つようにねがいたい」と語り、宮古漁業組合長山崎祐三氏は「こんどの津波は湾の奥ほど大きい被害を受けた。とくにノリ、カキなどと浅海養殖動力船や定置網などの被害が大きい。被災者は漁民が多いのですぐ生業資金の援助をたのみたい。こんどの復旧は単なる原形復旧でなく、昭和八年のように改良復旧でやってほしい」と語った。

津波にたえる住宅政策

同市高浜漁業佐々木惣蔵さん（三七）　何よりも先に住宅が必要だ。われわれ養殖水産業者にとってノリ、カキの生産再開ができるようにしてもらいたい。この災害を機会に高浜、金浜に限らずこんど津波にも大丈夫なよう住宅地帯を設け、また防波堤など総合的な対策を実施してもらいたい。

うわべの復旧はご免
希望を与える施策で

山田町

町の三分ノ一が被災して総額十五億円の被害を出したが、陸上自衛隊員六十二人の活動で、二十五日夕刻不通だった同町織笠地内の二級国道が開通した。復旧資材の輸送が南北から自由になり、二十六日から自衛隊員も二百四十人に増員されて急ピッチな復旧が期待された。浸水のためポンプが故障していた同町の上水道も二、三日中には復旧し、休校中の小・中学校も二十七日から授業を再開するので町はようやく明るさをとりもどしている。しかし、山田町はスルメの不漁などが続いたあとの津波で決定的な打撃となり、農業五億、水産三億、工業一億のほか、町の心臓部だった商店街も二億一千万円の被害を受けるなど、山田町にとってこんどの津波は致命傷となった。佐藤町長はひとまず災害の全ぼうを報告するため二十六日出県したが「こんどの対策は単なる災害復旧でなく、とことんまでうちひしがれた町民に明るい希望をもたせるような施策を考えてもらいたい」と語った。

これからの生活は真っ暗だ

同町織笠昆テルさん（四七）　ノリは昨年秋の高潮で被害を受け、ワカメも悪かったし、津波で家や舟が流されてしまった。食うにも困る状態でいま六人が織笠小学校に収容され、町からのたき出しをもらっている。これからの生活の目安も立たない。一日も早く生活、生産両資金を貸し付けてもらって再建をはかりたい。

仮設住宅に満額補助を

山田町長佐藤善一氏の話　当町は千五百六十戸が流失、全壊したので、仮設住宅の補助三割以内というのを二割とか三割に切らずに満額補助して欲しい。公営住宅も二百四十戸やられたがこの復旧費も十分欲しいし、そのほかのワク外融資補助なども願いたい。水産関係ではノリの建て込み資材を小屋に格納していたのを小屋ごとやられ、またカキの施設は八、九割やられた。定置網は大、小型とも全滅し、小型船や無動力船もほとんど破壊されたのでこれらの補助を考えてほしい。農業関係は被害田畑百五十二㌶で、植え付けたばかりのが多く、県から技術者の派遣、苗の供給、労力も延べ七百五十人ほしい。道路などの土木被害は三千八百万円だが、ことに漁港の復旧は計画的にやってもらいたいし、町単独工事にも九割以上の補助が欲しい。

カキの養殖資材を早く

織笠漁協組合長山本永次郎氏（六三）　組合員はイソ漁業で生活し、百人はカキ、五十五人がノリをやっている。いまカキの養殖準備が八〇％進んだばかりで、生産の見通しが立たないので困っている。早く資材を準備する資金の援助を望む。

国有林の払い下げを
住宅五十戸、急造したい

大槌町

災害対策本部長今野節町長の話　被害総額は十億円にのぼり、予想以上の被害だ。被災者は日赤などから救援の毛布、シャツなどを贈られたが、まだまだ足りない。被災者をいつまでも学校などに収容しているわけにいかない。五十戸ほどの住宅を早急に建て民政を安定したい。また町民の住宅建築のため国有林払い下げをお願いしたい。水田に冠水したり、カキダナや漁具を流失した農漁家もかなりあり、こうした町民の再生産のための補助や長期低利の事業資金融資を早急に望む。

苗や薬品を

桜ノ下農業佐々木惣介さん（六三）　田植え最中とんでもないことになってしまった。水田、なわしろはすっかり冠水、目もあてられない惨状だ。どうしたらいいものか手をつけかねている。一日も早く立ち上がりたいので苗や薬品がほしい。なんとか目がたたないうちにおねがいしたい。

救援物資が待ち遠しい

安渡漁業道土工藤康悟さん（三〇）　家を流したので、バラックでもよいからすぐ家と夜具、衣服などがほしい。打ちのめされた八十世帯の人たちがみんな同じ気持ちだろうと思う。物資のくるのが待ち遠しい。

全額補助以外生きる道ない

大槌漁協組合長[illegible]さん（五三）　カキは全然養殖できなくなってしまった。そのためカキ養殖業者は現金収入の道がなくなった。しかもワカメの採取期を迎えて漁船や漁具を流され、手を上げている。漁民が毎年災害にやられ困り果てた。融資などいままでのような手ぬるいものでは再起できない。全額補助以外漁民の生きる道はない。

零細漁民忘れるな

久慈市

津波対策本部長[illegible]文雄助役　切実に感じるのは被災者は零細漁民なだけに、動力船や漁具を失い漁期を目前に控えて生計にも響くことだ。煮干しなど小規模な加工場を個人で持っている沿岸では船を失ってコウナゴなどせっかくとったものも腐らせてしまう結果になる。零細漁民へも金融の道を開いて欲しいが現在の復興融資の形ではこれも困難なので、補助を考えてほしい。玉ノ脇港などの被害もかなり大きいが、こうした問題にくらべると第二次的なことになろう。何よりも零細漁民への救援対策だ。

天災法の適用を
こんご住宅は高台に

陸前高田市

助役熊谷喜一郎氏の話　公共施設がかなり被害を受けたので、天災法を適用し工事を早急するよう県災害対策本部を通じて要請した。被害者の生活安定のため建網、漁船など生産面の復旧資金もどしどし融資してもらいたい。国鉄関係の被害も大きく、現在の状態ではマヒ状態同然なので、十日以内に復旧するよう要望している。被災者に対してはとりあえず部落ごとに炊き出しを行なって支給し、寝具も県や日赤などをはじめ片倉製糸女子寮から百人分の寝具を借りたので心配ない。被害地域はほとんど井戸なので飲料水に困っているが、水道の末端からビニール管をひいて飲料水を確保している。水田約三百㌶が耕作不能となったが、ほとんどが堤防の決壊で海水が入り塩害によるものだ。早急に堅固な堤防をつくり、真水を流して早く植えられるよう耕地の確保につとめる。家をなくした被災者には資金融資で建てられるよう関係方面に強く働きかけるが、こんど家を建てる時は津波対策としても高台が望ましい。

冠水田の復旧へ
さし当たり資金が欲しい

野田村

大沢幸蔵助役　まだ被害集計が完了していないので実情調査が先決だが、水産と耕地関係の被害が大きいのでその復旧が目あてだ。財政困難だけに単独工事はむずかしいので補助などの形で有利な措置を講じて欲しい。被災者や生活困窮家庭にとりあえず寝具、衣類などを贈り、近所でもいろいろ世話している。植えつけのすんだ水田の復旧なども急がねばならない。

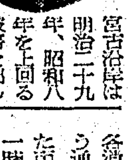
野田漁協組合の話　魚市場事務所、倉庫などが完全にやられ、早急に再建しなければならない。さし当たり資金面で困っているので補助なり融資なりを大幅に考えてほしい。幸い漁民個々の被害が軽かったので、この辺では助かったと思う。

内陸部に苗の補給頼む

釜石市

災害対策本部副本部長千葉茂助役　釜石市の場合は二十六日いっぱいで毛布やゴザなどが確保出来、生活必需品も確保できた。また食品類も現地調達出来た。鵜住居、片岸の防潮堤を補修し一刻も早く三十㌶の田植えをしなければならない。遠野、宮守、花巻に苗の補充方を依頼している。いま困っているのは市内の中、小企業者の立ち上がり資金の融資で、金融機関が融資条件を緩和、貸し付けてくれねば困るので、この点をとくに関係機関に要望したい。また漁民たちの救済対策として低利融資なども必要で、こうした政治的配慮を一刻も早くやってほしい。

川水の引くのを見て通報
"警報"の前に避難
宮古市消防署　白鳥さんに感謝の声



宮古沿岸は明治二十九年、昭和八年を上回る被害を出しながら、行くえ不明一人を出しただけですんだ。最初に津波を発見した市消防署員白鳥定男さん（三一）＝写真＝の適切な措置のためで、市民の感謝と称賛の的になっている。白鳥さんは津波襲来の二十四日未明に消防署の望楼で火災の発生を監視していたところ、午前三時四十五分ごろ閉伊川川口の水が激しく引き、係留中の漁船が川底に横倒しになったのをみて「津波の襲来」を直感した。直ちに菊池市長と一条市消防署長に報告、指示を仰いで、避難サイレンをならすと同時に市内各消防分団員へ避難誘導するよう通報した。サイレンに驚ろいた市民はすぐに高台に避難、約一時間後に気象台から津波警報が発令になったとき市民の避難はすでに終わっていた。市民は「白鳥さんの適切な措置がなかったら死傷者がたくさん出ただろう」と語り合っている。

県高教組も募金運動決める

県高教組は二十五日、盛岡市加賀野新小路県高校会館で緊急執行委員会を開き、津波被害の救援協力について協議した。津波の被害を受けた久慈、宮古、釜石、気仙の四支部に対して被害状況の報告を求めるとともに、同本部から現地に調査団を派遣、被害調査を行なう。また県内高校教職員千八百人と高校生約三万人に呼びかけて、被害者に救援金品を贈る運動を進めるほか、全国各高教組に実情を訴え、協力を呼びかけ、さらに六月五日富山県で開かれる日高教組全国大会にも救援対策を進めるよう提案する。

人海戦術で作業
自衛隊、機械は使えず

大船渡の民間救援隊は大船渡、盛などの救援隊と合わせて五千人に上り、廃墟と取りくみ、力と汗の戦いを見せている。陸上自衛隊の救援は岩手駐とん部隊、宮城県船岡駐とん隊三百二十九人がダイヤフラムポンプ、給水セットなど各種車両五十八台をフルに動かしている。隊は五個中隊で、一個中隊が陸前高田へ、また一隊は管理中隊として連絡や資材の管理に当たり、大船渡には三個中隊が直接作業に活躍している。朝八時から夕方六時まで奉仕しており、市民の感謝の的となっている。雑然とした流木などの整理で近代工法にはおよそ縁遠い人海作戦の作業に終始し、作業は予想外に手間取っている。二十六日には東京から予防衛生中隊三十五人と青森から第九衛生中隊三十人が出動し災害後の防疫活動に当たっている。

一方地元大船渡市、気仙郡三陸村の消防団員は自衛隊と並んで大きな労力源となっている。この日千四百人が佐々木団長、水野本部長の指揮に従って整然として作業を行なった。作業は交通網の開設と死体の収容に主力を注いでいるが、二十五日には流木で途絶していた二級国道仙台—八戸線地ノ森—須崎間四㌔にわたってやっと車が通れるほど復旧した。また盛高校男女生徒約三百人が二十四日に引き続き奉仕作業を買って出ている。

本県に8600万円
災害救助交付金

厚生省は二十五日津波被害の多い北海道、青森、岩手、宮城、三重五道県の災害救助法にもとづく災害救助費の国庫負担分概算交付額を決めた。二十六日大蔵省と協議し一両日中に関係県に概算交付する。同省の概算内容と五道県の災害救助費負担見込み額は総九千三百四十五万円にのぼる。それに対する国庫負担額一億一千百五十八万六千円になり、このうち北海道関係が少ないので、交付しないで四県にだけ概算交付する。関係分救助費と国費負担額次のとおり。

岩手　八千六百万円、六千二百二十五万六千円。

苗不足と塩害に悩む
農業地帯にも大打撃

津波の被害は沿岸農業地帯にも打撃を与え、苗不足と塩害で農民はうちひしがれている。

◇陸前高田市の長砂町から脇ノ沢一帯は同市の穀倉地帯だが田植えするばかりのなわしろ九㌶が波に洗われ市は農家の浮沈にかかわると隣接町村に苗の提供を呼びかけている。同地内の埋没流失水田面積は二百九十二㌶で、同市の水田六百㌶の約半分を占めているが、津波の漂流物や泥で埋まり、作付け不能の状態となっている。市の対策本部は復旧がすみしだい気仙川から大量に水を流し込んで海水塩分を緩和して田植えする緊急対策をたてたが、かんじんのなわしろが全滅したので苗の供給を呼びかけている。

◇釜石、大槌地方の海岸一帯の水田約六十㌶が津波で冠水したほかなわしろ約千五百平方㍍が泥水に埋まった。一番こわい塩分の洗礼を受けて大槌地区の人は平年作から五割近い減収は必至とみている。鵜住居農業改良普及所は水田に水を流しっぱなしにして塩分を緩和するほかなわしろにはカル、ウスプルンなどの水銀剤を散布するよう指導している。冠水のひどかったのは鵜住居川の堤防と防潮堤が決壊したため鵜住居、片岸地区約三十五㌶、それに大槌、小鎚両河川流域の一部二十五㌶。また大槌町下野地区の八㌶は田植えが終わったばかりだったが、冠水による塩害で苗はすっかり赤く枯れている。冠水した水田には、土砂や漂流物が残り、手もつけられない状態なので、この整理にはかなり日数を要するものとみられている。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。